

庄司先生が亡くなってからどれほど経ったのでしょうか。

あれから全面研は事実上止まってしまいました。

先生がいないのに、全面教育学研究会を運営している、不思議な感覚です。

先生がいない会は、回を追うごとに参加人数が減ってきていました。

それは当然のことかもしれません。

最後の10月15日は5人。

人間ばかり主義では寂しいと言ったスマイレが頭をよぎります。

先生は、自分の学問を作りなさい、と折あるごとに言いました。

それは全面研の解散を意味するとは思いません。

全面教育学を、混迷の現代と対峙させることもなく消し去っていいとも思えません。

あの偲ぶ会の先生の肉声が言っていました。

「公教育を批判できるのは全面研しかいない」と。

成城の民間教育理論を超えたところに庄司先生は立ちはだかっていました。

権力の背後にある得体の知れない影のようなもの。個性尊重といいながらの全体主義…。

先生は、そういうものに与しない存在でした。

先生の最後の全面研での遺言は柳田教育学研究の充実でした。

「全面教育学から柳田研究をなくしてしまえば空洞化してしまう」と。

「誰か全面教育学を継承してくれないかなという思いがある」と。

自分の学問を作ろうとするメンバーの結集がなければ実現しないと思います。

先日ことわざ文化学会から創作ことわざの原稿依頼が私（全面研）にありました。

来春、発行される書籍に入れる小学校教員向けの創作ことわざ作りのノウハウの依頼でした。

全面研の看板を下ろすのは時期尚早かな、と思いました。

ことわざ教育論、認識論、死の教育、柳田教育研究…

全面研が展開する様々な研究テーマは、みな

庄司先生という大樹が放った花だったのかもしれない。

我々が抱えている小さな種は、集まって咲かせないと再び花開かないのではないのでしょうか。

各テーマごとのブックレット編集という腹案があったのですが賛同者がなく頓挫。

そこで、全面研のホームページを存続させ、そこを“クラウド研究会”としたいと考えました。

今後も

全面研という花の種子を持っている皆さん、実践記録や研究成果をこの全面研にお寄せください。

この“クラウド研究会”を今後の全面研の窓口としたいと思います。

事務局運営者とはいえ、

全面研の末席にいた私がこのような提案を勝手にしていいのかいささか疑問です。

どなたか手を上げて下されば、そのときは潔くバトンをお渡しします。

先生は、篠原さんのレポートの際に「50年後に全面研の研究は再び評価される」と断言しました。

全面研を砂に埋もれた考古学的ながれきにさせないように、ネット上でささやかに継続させていき

たいと思います。

先生が言い残した「誰か全面教育学を継承してくれないかなという思いがある」。

を誰が全面教育学を継承してくれるのか見極めるまでホームページは存続させようとホームページ運営者の尾崎さんとも話しました。

庄司先生の奥様からも熱いお気持ちの支援のことばが事務局にありました。

ご意見があれば遠慮なくご連絡ください。

《全面研今後の活動》

- ・ 庄司家での先生の書籍および研究資料の整理

担当：小田、武田ほか

参加希望の方は直接小田さんに連絡してください。

1月から3月の間に行う予定です。

- ・ 追悼集の頒布

残部寡少ですが、1部3,000円で頒布しております。小田さんが自費で賄っているためカンパの意味も込めてメンバーの方一人一冊ご購入願います。

- ・ ホームページ上での運営・管理。

以上です。

事務局 徳永 忠雄